

## 可茂農林事務所の普及活動状況 令和6年6月25日現在

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■地域農業の担い手 「地域計画」策定に向けた連携会議を支援（八百津町）

管内各市町村では、農業経営基盤強化促進法等の一部改正に伴う「地域計画」の策定に向けた検討・作業が進められている。

八百津町では、町内6地区で「地域計画」を策定予定であり、5月31日に町防災センターにおいて八百津地区を対象とした「連携会議」を開催し、関係集落の代表農業者、地域の担い手をはじめ、関係機関（町事務局、町農業委員会、JA、岐阜県農業会議、農林事務所（農業振興課、農業普及課））合計約40名が出席した。

当日は、町から「地域計画」の概要、「目標地図」（素案）の検討・作成における留意点等を説明した後、集落に分かれて今後の担い手農地の検討、受け手農地の地図へのゾーニング作業を行った。農林事務所をはじめ関係機関は、各集落での検討・作業において随時助言等を行い、会議の進行を支援した。

坂祝町においても、6月17日に町、町農業委員会、関係機関をメンバーとする「戦略会議」が開催され、農林事務所（農業振興課・農業普及課）も出席し、「地域計画」作成の方向性を検討した。

農林事務所は、今後も管内各市町村における「地域計画」策定に向けて、必要な助言・支援等を継続する。  
（地域支援第一係）



【検討を行う参加者(八百津町)】

#### ■可児夏秋茄子生産組合 目揃え会の開催を支援

可児夏秋茄子生産組合は6月24日、可茂中央市場(株)で目揃え会を開催し、生産者7名と関係機関7名が出席した。

出荷始めに当たり、市場関係者、全農、JAめぐみのから販売情勢の報告と、出荷規格、出荷方法の周知徹底が図られた。農林事務所からは、高温予想を踏まえた収穫期の栽培管理の注意点と、GAPの取り組みについて説明した。また、熱中症対策を始めとする農作業安全についても周知した。

今後も、収量・品質の向上を目指して、JAと連携して巡回等により栽培支援を継続する。  
（地域支援第二係）



【目揃え会の様子】

### 安心で身近な「ぎふの食」づくり

#### ■白川野菜村チャオ運営協議会 農薬の適正使用を周知

白川野菜村チャオ運営協議会は6月9日に、白川町町民会館で通常総会及び研修会を開催し、46名の会員が参加した。

総会終了後の研修会では、農林事務所が講師を務め、農薬の適正使用と栽培履歴の記帳について説明を行った。間違いやすい事例をあげながら、農薬の使用基準を守ること、農薬を適正に保管すること、農薬を安全に使用することなどを周知した。

農林事務所では、農薬の安全使用の徹底を指導し、安心な農産物の提供推進を継続していく。



【総会終了後の研修会】

（地域支援第二係）

## ぎふ農畜水産物のブランド展開

### ■美濃白川茶 岐阜県茶品評会で可茂地域が上位を独占

令和6年度岐阜県茶品評会審査会が6月12日、美濃茶流通センター(揖斐川町)において開催された。可茂地域からは、白川町から6点、東白川村から3点、八百津町から3点が出品され、揖斐地区の14点を合わせた計26点で審査が行われた。審査は、生産者代表のほか行政関係者など11名が、1点ずつ、外観、内質(水色、香気、滋味)の計4項目で評価を行った。

審査の結果、1位と2位を東白川茶業振興会が、3位を(農)中野茶生産組合、4位を(農)白川北茶生産組合、5位を(農)宇津尾茶生産組合、6位をJA佐見茶生産組合が受賞し、上位を可茂地域が占めた。今回出品された上位15点は、8月に開催される関西茶業品評会に出品されることとなった。



【内質を審査する審査員】

(園芸産地支援係)

### ■美濃白川夏秋トマト部会 3Sシステム現地検討会を開催

美濃白川夏秋トマト部会では、令和8年度に「年間出荷量600t」を目標に掲げ、栽培改善、新品種導入、新技術導入などの取り組みを行っている。出荷量は作付面積と比例するため、規模拡大が必要ではあるものの、中山間地域では土地条件から難しいことが多い。そこで、面積当たりの出荷量を増やす技術として、トマト3Sシステムを導入することとなった。県内の他の夏秋トマト産地では、導入されているものの、当地域では初めての導入となり、出荷開始時期に合わせて初めての現地検討会を開催した。

農林事務所からシステム概要、栽培体系、導入のメリット、リスクなど説明を行うとともに、導入者からは、ほ場準備から現在に至るまでの苦労について説明があった。参加者からは、生育状況や着果状況、ハウス環境の良さなどから、今後導入を検討したいとの意向が聞かれた。農林事務所では、栽培支援を継続し、収量分析など行うとともに、当地域にあった施設設計、栽培マニュアルの作成を行い、美濃白川夏秋トマト部会の産地出荷量増大に向けた取り組みを支援していく。



【導入者から説明を聞く部会員】

(園芸産地支援係)